



東京の会通信

No.242

2012年6月1日号
(毎月1回1日発行)

発行：公的骨髄バンクを
支援する東京の会
〒162-0065 東京都新宿区
住吉町10-8 第1菊池ビル302号
TEL：03-3354-6377
(FAX兼用)



http://www.marrow.or.jp/tokyo/
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100円

真面目な合宿(!?) 疲れを癒して熱心な議論

日ごろ、家事や仕事をこなしながら、余暇を利用して活動している東京の会のメンバー達。ボランティアだから当然だし、それはそれで楽しくもあり、やり甲斐を感じているのですが……「たまには温泉に入りたいー！」誰かが言い出したら、持ち前のチームワークであつという間に1泊2日の合宿が実現しました。

今回の合宿は、4月21、22日に東京の西の奥、鳩ノ巣にある、国民宿舎鳩ノ巣荘に宿泊しての定例会と懇親会です。過去の合宿ではテーマを決めて講師を招き、勉強会を行なったこともありますが、今回は拡大定例会がメインで、普段の定例会では時間が足りなくて十分に話し合うことができない議題について、じっくりと検討するのが目的でした。ただ、日程が決まるのが多少急だったこともあり、参加者は11名とちょっと少なめでした。

当日は電車組、車組、遅れて参加する人などいろいろでしたが、電車組は12時に鳩の巣駅に集合。電車を下りると、1泊2日とは思えないような大きくて重そ

うな荷物を持った幹事の二見さんに出会いました。なんと二見さんは、駅の周り



盛り上がってます！

に酒屋やコンビニがないのを見越して、焼酎やビール、お茶のペットボトルに乾き物のおつまみ各種を用意してきてくれたのです！すごい重さの大きなバッグです。このおかげで夜の飲み会が非常に充実したものとなったのは言うまでもありません。

駅前には移動販売の八百屋さんのトラックが止まっており、着いていきなり大きな竹の子を購入。その後、近くの手打ちそば屋で昼食を済ませて、いざ鳩の巣荘へ。チェックインまでの時間は会議室を借りて定例会です。時間を気にしなくていいのと、終わった後温泉と宴会が待っているのとで話し合いは大いに盛り上がり、議論を尽くして多くの議題をこなすことができました。

夕方からはお待ちかねの入浴タイムと宴会です。入ってから飲む人、飲んでから入る人それぞれでしたが、温泉はいいお湯で、お料理もそれぞれ美味しく、おなかもいっぱいになって部屋に引き揚げました。おひつに余ったごはんは、大橋さんがみんなの為ににおにぎりにしてくれました。

そこから宿泊部屋の一室に集まって、二見さん持参のお酒とおつまみで楽しい第二部へと突入し、真面目な話、他愛ない話、とても書けない話……はなかつたけど、尽きる事のないおしゃべ



好評だった大橋さんの塩むすび

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (平成24年4月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	409,096	55,369	35,582
4月登録分	2,349	241	223
4月抹消数	1,142	139	—
実質登録増	1,207	102	—

患者とドナー登録・適合状況(4月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	540,210人
ドナー登録抹消者数(累計)	131,114人
有効二次検査済ドナー数	408,809人(4月1,227人増)
二次検査適合ドナー数(累計)	268,266人
実質登録患者実数(現在)	3,077人(国内1,565人)
HLA適合患者数(累計)	28,912人(患者累計数の81.3%)
非血縁移植実施数	4,1521例(4月実施101例)

りで夜は更けて行きました。しかしメンバーの平均年齢は高く、朝まで飲むというようなことはせずに、1時過ぎにはそれぞれ床につきました。

翌日は、予定のある人は朝食後に帰り、残った数名は奥多摩湖でお花見をしてから帰途につきました。都民の水瓶の奥多摩湖周辺では、ソメイヨシノやヤマザク

ラが見事に咲いており、温泉でお肌はツルツル、桜を見て心はほっこり栄養をもらい、今後の活動への英気を養いました。(福永達子)



奥多摩湖でお花見ランチ

2012年度献血ルーム活動開始!

●春のドナー登録は有楽町から

4月28日(土)、今年度第一回目の献血ルームにおけるドナーリクルート活動を有楽町献血ルームで実施しました。東京の会では例年、4月に銀座教会にて活動を行ってきましたが、一昨年に登録者が4名にまで落ち込んでしまい、活動を停止しています。ただ、昨年からは5月に有楽町での活動を行っており、今年もスタートは有楽町からです。銀座教会での活動の意思を受け継いだ、春の恒例行事にしたいと思います。

当日は天候も良く、連休初日ということもあり、街を歩く人は多かったように思います。駅前ではあしなが育英会の募金活動を実施していました。たくさんの方が募金に応じ、活動している生徒は大声で感謝の気持ちを伝えていました。「さすが有楽町、大人の街の紳士・淑女の優しさを感じる」と思っていたのですが、ルーム内では少し状況が違っていたようです。説明を始めても、登録して下さる方はあまり多くありませんでした。結果、登録者数は10名となりました。献血者数は昨年の活動と同じ位の人数だったのですが、昨年よりドナー登録者数が減ってしまうという結果となりました。ゴールデンウィークの初日で、普段の休日に来られる献血者とは年齢層などが異なっていたのかもしれない。少し課題の残る結果となりました。

●新宿東口では過去最高記録を達成!

5月12日(土)、新宿東口献血ルームでドナーリクルート活動を実施しました。当日はボランティア12名と、多くのメンバーの協力が得られました。「活動結

果でドナー登録者がボランティアより少なかったらどうしよう……」と心配になるほどでした。

当日の天候は良く、日が射すと肌がジリジリと焼け、夏のような天気でした。有楽町の呼びかけでは、日赤職員は1フレーズごとに頭を下げていましたが、新宿で呼びかけをしていた職員は、一人ひとりに視線を合わせ、直接話しかけるように勧誘しているようです。そのため職員の前は通過しても、少し思いとどまり、また戻ってきて職員に話しかけるというような方が数多くいらっしゃいました。それぞれのルームで、それぞれの街に合わせて熱心に呼びかけを行い、一人でも多くの献血者を増やそうとする職員の方々の思いを強く感じました。

ルーム内では説明に耳を傾けてくださる方も多く、メンバーが多いため交代で休憩を多めにとるスケジュールとしていたのにもかかわらず、総出で説明にあたる時間帯も多かったようです。結果、ドナー登録者数26名という過去最高の記録を達成できました。参加メンバー一人ひとりが毎回工夫を凝らして活動している結果だと思います。また近いうちに、「記録再更新・1日の登録者30名突破!」と紙面でご報告できるよう、今後も活動を継続してまいります。

■次回のドナーリクルート活動は6月30日(土)アキバ献血ルーム(秋葉原駅前)です。どなたでも参加できます!引き続きご協力をお願いいたします!

(保居範昭)

東京の会 「6月定例会」 のお知らせ

6月16日(土)午後5時30分より

会場:全労済東京・レインボー会館3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分(新宿区西新宿7-20-8)

※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい北陸銀行の角入ってすぐ右側

※7月定例会予定・7月21日(土)午後5時30分より

定例会は毎月第3土曜日午後5時30分 から開催しています。

7月会報発送 「おりおり」 のお知らせ

7月7日(土)13時00分より

※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。

場所:品川運輸・4階会議室(品川区東大井2-1-8)

JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分

※今お読みになっている「東京の会通信」を約1000部折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。

新しい方大歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしております。

赤ちゃんが生まれました！

大谷 貴子

抗がん剤の副作用の一つに不妊があることは良く知られてきました。当然ながら、白血病の患者さんも例外ではありません。私も25歳で発病していますから、友人の出産ラッシュに心から喜べない自分を情けなく思っていました。

そんな中、そう、今から12年ほど前ですが、加藤レディースクリニック（新宿）の未受精卵子保存の記事を目にします。未婚の白血病患者さんには朗報です！ありがたいことに加藤院長はじめ桑山研究部長（当時）、そして、多くのスタッフの方々のご協力を得ることができ、白血病患者さんへの未受精卵子保存が可能になりました。

今回は、日本初（……と思われま）の実緒子ちゃんをご紹介します。目がクリクリと本当に可愛いです。

実緒子ちゃんは、8年間未受精卵子として凍結保存されていた卵子から生まれました。お母さんは、抗がん剤のワンクールを終えたとき、インターネット情報から加藤レディースクリニックを知り、通い始めます。そして、6個の卵子を保存することができました。幸いにもその後再発することはなかったので、化学療法だけで寛解に……。そして、結婚後、凍結卵子で妊娠！多くの方々の努力が結実し、お母さんと赤ちゃんとの

へその緒、そしてこの子もいつかは母親になり、また赤ちゃんとのへその緒が存在する、と、「実緒子」と名づけられました。

24年前、「普通の高校生になって、普通のお嫁さんになって、普通のお母さんになって、普通のおばあさんになって、普通に死にたい」とある白血病患者さんが中学校の卒業文集に書き残しました。ようやくその思いが結実しました！

血液内科医&生殖医療医の見事なコラボレーションでこれからも新たな命の誕生を期待しています。



みおこちゃん

講師も決定！

東京の会総会と記念講演会は6月23日

いよいよ今月6月23日「2012年度公的骨髄バンクを支援する東京の会総会」を開催します。終了後には、下記講演会を開催いたします。

第1部「献血した血液はその後どうなるか？（仮題）

日赤東京都赤十字血液センター医務課長 石丸文彦先生

第2部「血液学の基礎」東京大学医科学研究所付属病院輸血部 長村登紀子先生

東京の会では一昨年より献血ルームでのボランティア活動を続けてきました。献血ルームの現場で色々な質問も受けています。そこで実際に日赤で業務に当たられている方をお呼びし、現場での動きを教えてくださいたくのと同時に、献血で集められた血液がその後どの

ように患者さんに届けられるか勉強します。また改めて「血液学の基礎」を学習します。

総会・記念講演会とも、どなたでも参加できます（参加費無料）。また記念講演会の後は懇親会（会費制）を開催します。皆様、お知り合いにお声をかけていただき、ふるってご参加ください。

日時 2012年6月23日（土）13:00開会

13:00～14:00 東京の会総会

14:00～16:30 記念講演会（2部制）

17:00～ 懇親会

会場 全労済東京会館3階会議室

（東京都新宿区西新宿7-20-8）

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2012.4.16～5.15)

竹崎 恵子さん 30,000円／徳田 ひろみさん 2,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費（年3,000円）を差し引いて掲載させていただきました。

編集者 雑記



▼少し旧聞になりますが、4月24日東大医科学研究所附属病院で開催された医療講演会に参加しました。そこで福島第一原発の地元、福島県立医科大学の竹之下誠一教授のお話を伺う機会を得ました。震災・津波による原発事故の直後の混乱の中で福島県の中核医療機関としてどのように対処したのかについて、DVDの記録映像「悲劇を奇跡に」を拝見し、お話からご苦労のほどがわかりました。

▼震災、津波災害に加え、原発事故による放射能被害を避けるため、当初原発周辺のいくつかの医療機関や介護施設に集団避難が必要になり、受け入れ先の確保、移動運搬手段の確保に大変なご苦労があったようです。原発周辺地域ではライフラインの停止により医療・介護施設の機能が崩壊し、再建が大きな課題となっています。

▼原発事故により、放射性物質が広範囲に飛散しましたが、濃度の高い緊急避難地域を除いて逐次住民の帰宅が行われてきています。福島県は今回の震災と津波災害、福島第一原子力発電所爆発事故をマイナスに終わらせず、復興によってプラスに転じようと積極的に取り組んでいます。福島を原発放射線医療の拠点として、世界にアピールしていくことを目指しているとのこと。

▼原発事故で県民の健康に大きな影響が生じないように放射線医学県民健康管理センターを設置してフォローアップし、放射性物質の健康被害を予防・治療する創薬・医療機器の開発生産企業を育成することによって、雇用・所得を生み出していくことも計画をしているようです。政府も新成長戦略の一つとして先端医療機器産業の育成を掲げています。その具体策の一つが2月に郡山市で開催された「メディカルクリエイションふくしま」です。

▼福島県にはもともと日本を代表する内視鏡メーカー

の工場や、アメリカの医療機器メーカーの工場、更にこれを支える技術力の高い中小企業の下請企業群があり、下地は整っているようです。日本の機器の売り上げはこの20年で約1.6倍に伸びていますが、国内メーカーは横這いであるのに対し、海外メーカーは約2倍に伸び、国内メーカーは海外メーカーに押され気味でシェアを二分する状態です。

▼創薬の分野では我が国の国際競争力は医療機器よりもさらに劣勢の感じを受けます。日本で新薬が市場に出るまでには基礎研究から始まり、実験動物対象の有効性、安全性の確認、人を対象の治験、承認申請、承認、薬価設定等の手続きを経てやっと上市（市場での販売）されるのですが、早くても9年から10年、遅い場合には20年もかかります。一つの医薬品が世に出るまでには、研究開発に500億円、販売促進費を含めた総費用は1200～1900億円もかかるといわれています。そのため、医学的には価値が高く難病治療に必要な薬剤でも、症例が少なく市場が小さい場合には開発が行われないことが多いのです。

▼この春、がん治療薬の開発に携わる高名な医師がアメリカの大学へ転職されました。いわゆる頭脳流出です。新薬の開発や新しい医療機器の開発には、豊かな臨床経験を持つ優れた医師と薬剤開発技術者、医療機器開発技術者の密接な連携が必要だと思われま。優秀な人材が医療現場、開発分野の双方にあり、ニーズの情報交換があって初めて優れた新薬や医療機器が生み出されるのです。人材の流出は我が国にとって損失です。

▼人材流失はなぜ起きるのか。問題は簡単ではありません。研究費用の問題、新薬や医療機器承認手続の難しさ、審査期間の長さ、承認・上市の困難度、開発者の処遇待遇問題などいろいろな問題が絡んでいます。解決策としては、国が新薬開発や医療器具機械の開発に積極的に取り組み、障害を取り除く姿勢を強め、開発プロジェクトを定めて、プロジェクトチームづくりを支援するなど具体的施策を示すことが必要と思われま。福島県を始め被災地が速やかに復興し、奇跡が生み出されることを願ってやみません。(k)

東京ドナー登録会予定(6月)

6/1 (金) 日大法学部 (千代田区)

6/12 (火) 八重洲ファーストフィナンシャルビル (中央区)

6/5 (火) 国際ビル (中央区)

6/13 (水) 赤羽駅東口 (北区)

6/8 (金) カシオ計算機初台 (渋谷区)

ご寄付と会費の納入、そして絵はがきや書籍・テレホンカードの購入は郵便振替にてお願いいたします。
皆様からの善意をお待ちしております。

郵便振替口座番号 **00100-1-555195**

他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900) / ○一八支店(018) 普通口座No.4180512

加入者名義 **公的骨髄バンクを支援する東京の会**